

2025 年 4 月 14 日

【SUPER GT 第 1 戦 / 岡山国際サーキット レポート】
2025 シーズン開幕戦で、ANEST IWATA RC F GT3 が嬉しいチーム初表彰台を獲得

2025 年の SUPER GT が、岡山国際サーキットでシーズン開幕を迎えた。約 1 か月前の公式テストは肌寒い雨模様だった岡山だが、レースウィークは 20 度を超える温かな陽気でスタート。公式予選では GT300 クラスで「グッドスマイル 初音ミク AMG(谷口信輝選手/片岡龍也選手)」がポールポジションを獲得した。公式練習を 10 番手で終えた「グッドスマイル 初音ミク AMG」は、谷口選手が「Q1 を突破できるかどうかのプレッシャーは大きかった」と言いながらも、グループの 2 番手タイムをマーク。バトンを受け取った片岡選手は、Q2 に向けたセットアップの調整も功を奏し、堂々のトップタイムでポールポジションを獲得。自身 2 度目、チームにとっては 2023 年第 4 戦の富士大会以来、約 2 年ぶりのポールポジションとなった。

GT500 クラスは、公式練習では「リアライズコーポレーション ADVAN Z(松田次生選手/名取鉄平選手)」が 8 位、「WedsSport ADVAN GR Supra (国本雄資選手/阪口晴南選手)」が 9 位と中団にとどまったが、予選本番では 2 台そろって Q1 を突破すると、Q2 で大躍進。「WedsSport ADVAN GR Supra」が 5 位に着け、Q1 から 1 秒以上のタイム更新を果たした「リアライズコーポレーション ADVAN Z」が 3 位と、優勝争いも見えるグリッド位置を獲得し、翌日の決勝に向けて大いに期待が高まった。



翌日は朝から雨と強い風に見舞われ、決勝はセーフティカー(SC)先導でスタート。5 周目に入るところで SC が隊列を離れ本格的にレースがスタートしたが、直後の 2 コーナーで GT500 クラスの 3 台が絡む大きなクラッシュが発生する。レースは赤旗中断。幸い 3 台のドライバーは無事が確認され、約 30 分の赤旗中断ののちにレースは SC 先導のもとで再開し、11 周目から再びバトルが開始される。「グッドスマイル 初音ミク AMG」は、GT500 クラスのクラッシュ現場を通過するタイミングで後続車両にかわされ 2 位に後退したが、レースが再開され各車がペースアップしていく中でトップに近づき、パイパーコーナーでインから並びかけていった。しかしここで 2 台は軽く接触してしまい、相手の車両がコースアウト。これにより、「グッドスマイル 初音ミク AMG」はトップに返り咲くが、その後このアクシデントに対しドライブスルーペナルティが科され、トップ争いから外れることになってしまった。



赤旗中断の頃から雨は小康状態となり、ドライバー交代のタイミングを迎えるころにはドライタイヤに履き替えるか、ウェットタイヤに履き替えるかで各チームの戦略が分かれるような状況に。結果的にピット作業を2回行わなければならない、順位を下げていくライバルたちのなかで、最上のタイミングでタイヤ交換を行ったのが、イゴール・オムラ・フラガ選手の相棒にGT500クラスで戦った経験を持つ安田裕信選手を迎えた「ANEST IWATA RC F GT3」だった。フラガ選手がウェットタイヤでの前半スティントを伸ばし、50周を終えるところで安田選手に交代してドライタイヤに履き替えコースイン。2度目のピットインで上位陣が次々に後退していく中、「ANEST IWATA RC F GT3」は3位に浮上。終盤にトップに立っていたのはいち早くドライタイヤに変えて我慢の走行を続けていた「UPGARAGE AMG GT3 (小林崇志選手/野村勇斗選手)」だったが、2位の車両との攻防の中で接触アクシデントがあり後退。「ANEST IWATA RC F GT3」は2位に上がってチェッカーを受け、チームとして初めての表彰台を獲得した。3位には平手晃平選手が移籍した「リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R(ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ選手/平手晃平選手)」が入り、ヨコハマタイヤユーザーが2位3位フィニッシュを飾った。



GT500クラスは、3番手スタートの「リアライズコーポレーション ADVAN Z」は路面状況が回復しペースが上がってきたタイミングで車両トラブルに見舞われ緊急ピットイン。修復後は上位陣と遜色ないペースで挽回を目指し、トップから12周遅れの11位でチェッカーを受けた。「WedsSport ADVAN GR Supra」は国本選手がウェットタイヤでの前半スティントを粘り強く走りぬぎ、交代した阪口選手もドライタイヤで一時ファステストラップを記録するハイペースを見せて追いつけていたが、65周目のマイクナイトコーナーで前を走る車両をとらえようとした際に接触。この接触で車両にダメージを負ってしまい、翌周のアトウッドカーブでストップすることに。両車ともアクシデントとトラブルに陥る結果となったが、次戦以降に期待を抱かせる力強い走りを披露した。

■ 松田次生選手(リアライズコーポレーション ADVAN Z)

【今回の成績：GT500クラス 11位】

決勝中、僕はウェットタイヤもドライタイヤも両方履くことになりました。ウェットタイヤは路面状況にも合っていたのが非常にタイムが良かったですし、ドライタイヤは路気温が低い中でウォームアップは大変でしたが、温まってからはトップと遜色ないようなラップタイムが見えていました。予選からいいポテンシャルが出ていたし、ロングランのタイムも良かったので、いい方向性が見つかったことが次につながってくれるといいなと思っています。

■ 名取鉄平選手(リアライズコーポレーション ADVAN Z)

【今回の成績：GT500クラス 11位】

ウェットタイヤでスタートしましたが、ウォームアップは悪くありませんでした。ドライアップするのは予想していたので、我慢のレースになると考えて、それを見越したタイヤチョイスをしていました。選んだタイヤにマッチした路面になってきたなと思ったところで車両にトラブルが出てしまい、もったいなかったです。リザルトとしては下がってしまいましたが、手ごたえを感じられた開幕戦で、19号車もいい走りをしていたので、次戦はヨコハマ勢が2台そろっていいところに行けたらなと思っています。

■ イゴール・オムラ・フラガ選手 (ANEST IWATA RC F GT3)

【今回の成績 : GT300 クラス 2位】

スタート直後はなかなかタイヤが発動せずにポジションを落とすこともありましたが、次第にパフォーマンスが上がってきてからは安定して速さを出せていたので、周りがウェットタイヤにもう一度履き替える中でも僕たちはステイアウトできたとし、そのおかげでちょうどいいタイミングで1回だけのピットインでつなげることができました。岡山は、僕たちのクルマとはそこまで相性のいいサーキットではないので、そこが舞台となる開幕戦で初表彰台をとれたことはものすごくうれしいです。

■ 安田裕信選手 (ANEST IWATA RC F GT3)

【今回の成績 : GT300 クラス 2位】

イゴール選手が難しいコンディションの中でしっかりと走ってくれて、だんだんペースも上がってきたのでできるだけピットインのタイミングを引っ張ろうということになりました。僕はドライタイヤを履きましたが、温まるまでに一度順位は落としたものの、そこからはいいペースで走れて、順位も取り返せました。サーキットと車両の相性的には富士の方が僕たちにはあっていると思うので、次戦も期待できると思っています。

■ 中崎敬介 [横浜ゴム タイヤ製品開発本部 MST 開発部 技術開発 1 グループ・リーダー]

直近の公式テストは雨・低温で思うような評価ができなかったのですが、それ以外のオフシーズンテスト等で試してきた DRY タイヤの評価が今回の予選結果に繋がったと考えています。決勝では FCY 走行が何度も入るような展開になり、その度にタイヤが冷えてしまう為、ウォームアップについてレベルアップが出来るよう引き続き取り組んでいきます。

岡山では予選は良い結果となりましたが、次戦富士では決勝でも上位に入れるよう、チーム・ドライバーさんの要望に応えるタイヤが提供できればと思います。